

令和5年7月14日（金）No.484



生徒一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、絆を深める里中学校

里中だより

川口市立里中学校
川口市里621番地
048-282-5708
さわやか相談室
048-284-1010
<http://www.sato-chu.com/>

生きる

校長 小野 毅

6月17日（土）から学校総合体育大会川口市予選会が開催されました。私も7日間にわたり11種目8会場に駆けつけ、里中の生徒の熱い戦いぶりを目の当たりにしながら応援して参りました。「里中」の名が入ったユニフォームを身に着けた生徒たちがとても頼もしく見えました。試合に勝った時の喜び、嬉しさ、負けた時の悔しさや辛さ。そして、これまでの練習で培った精神力、また仲間との絆など、部活動を通して多くのことを体験し、学んだことと思います。私も生徒と同じコート、ベンチに入り、一喜一憂し、生徒の一生懸命な姿勢に何度も涙があふれてきました。これまで日々、指導いただいた顧問の先生、朝早くからの弁当作りや汗と泥にまみれた練習着の洗濯、休日の練習に元気に送り出してくださったご家庭のご協力、試合会場に応援に来ていただき、生徒のがんばりを支えていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

さて、先日、「生きる ～大川小学校 津波裁判を闘った人たち～」という映画を見てきました。この映画は2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波で児童74人と教職員10人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校の裁判をテーマにしたドキュメンタリー映画でした。

私は、震災から6年後の2017年に大川小学校に訪問した時のことを思い出しました。とてもどかな田舎町の風景の中に、被災し、倒壊した校舎を見たとき、津波の恐ろしさを感じました。

映画にも出演されていた遺族の方に被害に遭った校内を案内していただき、当時のことをお話ししていただきました。その方は、3人のお子さん（園児、小学生、高校生）がおり、園児は奥さんが幼稚園に迎えに行き無事、高校生のお子さんとはなかなか連絡がつかなかったが、無事が確認され、最後に小学生のお子さんを小学校に迎えに行ったときに津波の被害に遭ったことを知ったそうです。その時、遺族の方に言われた次の言葉が今でも忘れられません。

「学校が一番安全だと思っていたのに…」

また、最後の裁判で、裁判長は次のようなことを述べたそうです。

「学校が子どもたちの命の最後の場所になってはならない」

この2つの言葉を聞いたとき、子どもの命を預かる責任の重さを痛感しました。

里中学校では、万が一に備え、5月に行いました里小・辻小・里中合同引き渡し訓練や避難訓練などを実施しています。今後も、様々な状況を想定し、災害などが発生した際に適切な行動が取れるよう、訓練等を実施していきます。

そして、子どもたちが安心して生活できるよう「命を守る学校」とする決意を強くいたしました。